

選考委員会総評

大石芳野（おおいし よしの）

鶴巻育子さんの『ALT』は、時間をかけて丹念に撮影した写真集です。撮ることも見ることも、晴眼で成り立っていると思うのが一般的です。その点を鶴巻さんは見えないことの意味や感覚などを自分に置き換えて、被写体の人たちと付き合い、理解を深めようと進めました。対談やエッセイなどの言葉によって奥深い内容がより具体的に立ち上がっています。見える自分が、見えない彼らとどう違うのか、同じなのか、彼らはどういう世界観の中にいるのか。想像をもって具体的に進めてきたことで、この写真の意義深さも伝わってきます。

私にも病気で目が見えなくなった友人がいるのですが、過去には見えていたのが今は見えない。その友人とここに写っている大勢の目が見えない人たちの写真とがつながって多くを教えられました。

この写真の特徴は目が見えない人の、あるいは少しでも見えている人たちの感性を掘り下げようとしている点です。セクション2「※写真はイメージです」によって、写真を見る側の私たちも想像力も膨らませられ、テーマの普遍性を感じます。芸術的な思索を自身と被写体のコラボレーションによって写真作品化したものとして林忠彦賞に相応しい写真集だと思います。